

さいたま市M I C E誘致戦略の策定について

平成30年4月6日 記者会見



さいたま市MICE誘致戦略の概要

1 MICEとは

(1) MICEの定義

M (ミーティング)

企業等の会議

I (インセンティブトラベル)

企業等の行う報奨・研修旅行

C (コンベンション)

国際団体、学会、協会等が主催する総会、学術会議等

E (エキシビジョン/イベント)

展示会・見本市、イベント

(2) MICE振興の意義

高い経済効果

一般的な観光客以上に周辺地域にもたらす経済効果
※国内で行われた国際会議の経済波及効果は約5,905億 (2015年)

ビジネス機会の創造

M I C E開催を通じたビジネスネットワークの構築

都市プレゼンスの向上

地域の魅力を対外的に発信し、都市の知名度を上げる
絶好の機会

さいたま市MICE誘致戦略の概要

2 戦略策定の背景と目的

背景

- 首都圏広域地方計画では、東日本の玄関口として、多種多様な人・モノ・情報が集結する対流拠点としての役割が位置づけられ、MICE分野でも発展が期待される。
- 一方、MICEの開催・誘致については、近年、世界各国、また日本の各都市において、取組が強化されており、厳しい競争環境にある。
- 本市におけるMICE開催件数を増加させ、地域経済の活性化、都市プレゼンスの向上につなげるには効率的・効果的な誘致活動が必要。

目的

MICE分野における本市の**目指すべき将来像の実現**に向け、取組の方向性を定める。

計画期間

2018年度から2020年度までの3年間

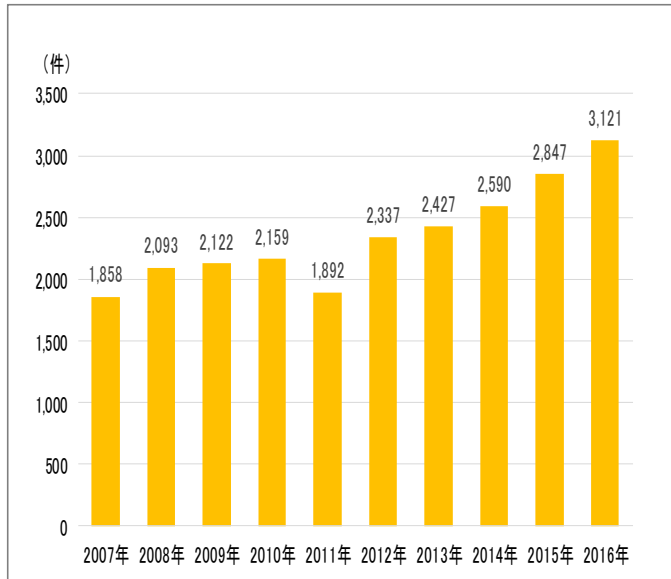
(2021年度以降については次期総合振興計画の策定に合わせて見直しを実施)

さいたま市MICE誘致戦略の概要

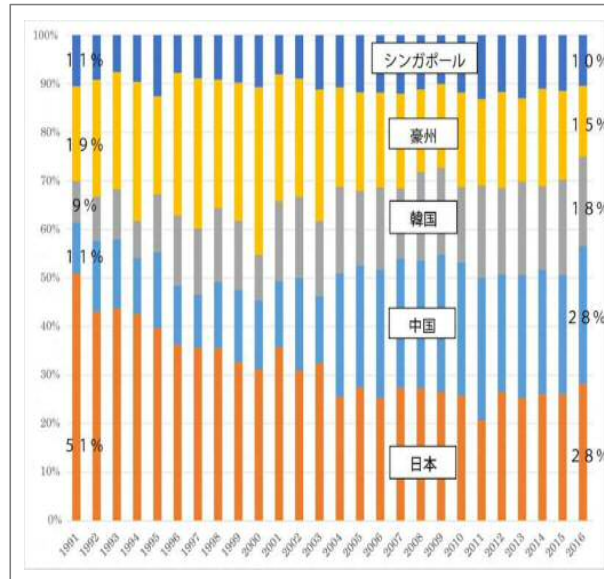
3 国の動向

(1) コンベンション（国際会議）の開催動向

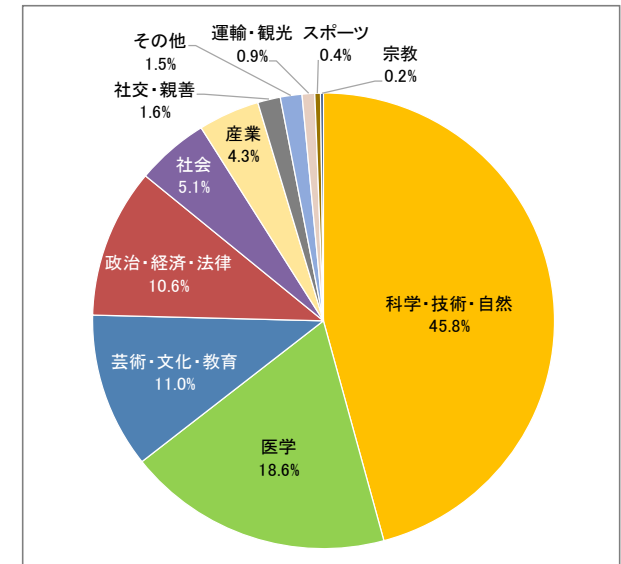
日本の国際会議開催件数



アジア・太平洋州地域の主要国の国際会議開催件数に対する日本のシェア推移

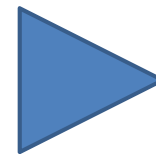


分野別開催割合（2007～2016年）



(2) 政策動向

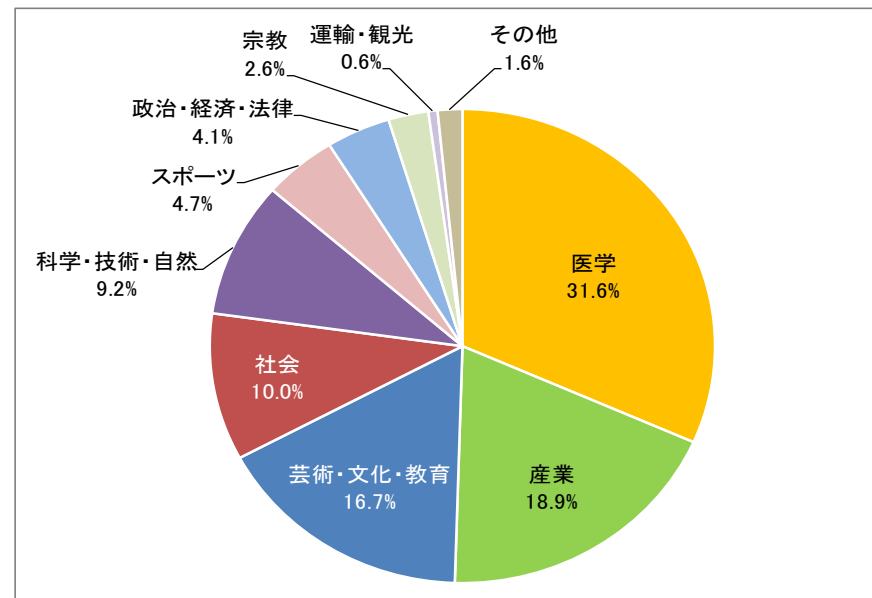
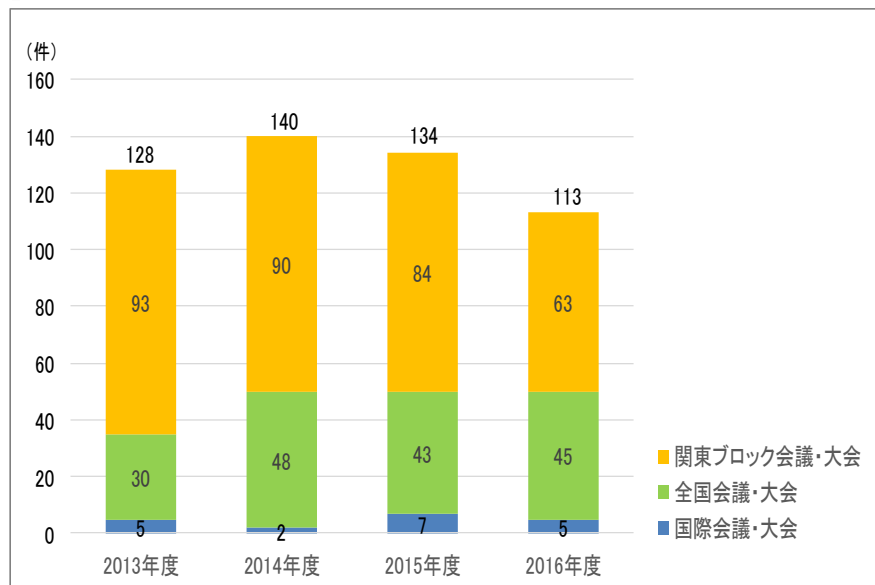
- ・未来投資戦略2017（2017年6月）
- ・MICE国際競争力強化委員会
中間とりまとめ（2017年8月）



**MICE全体の
施策拡充の検討**

4 本市のMICE開催状況

(1) コンベンションの開催状況



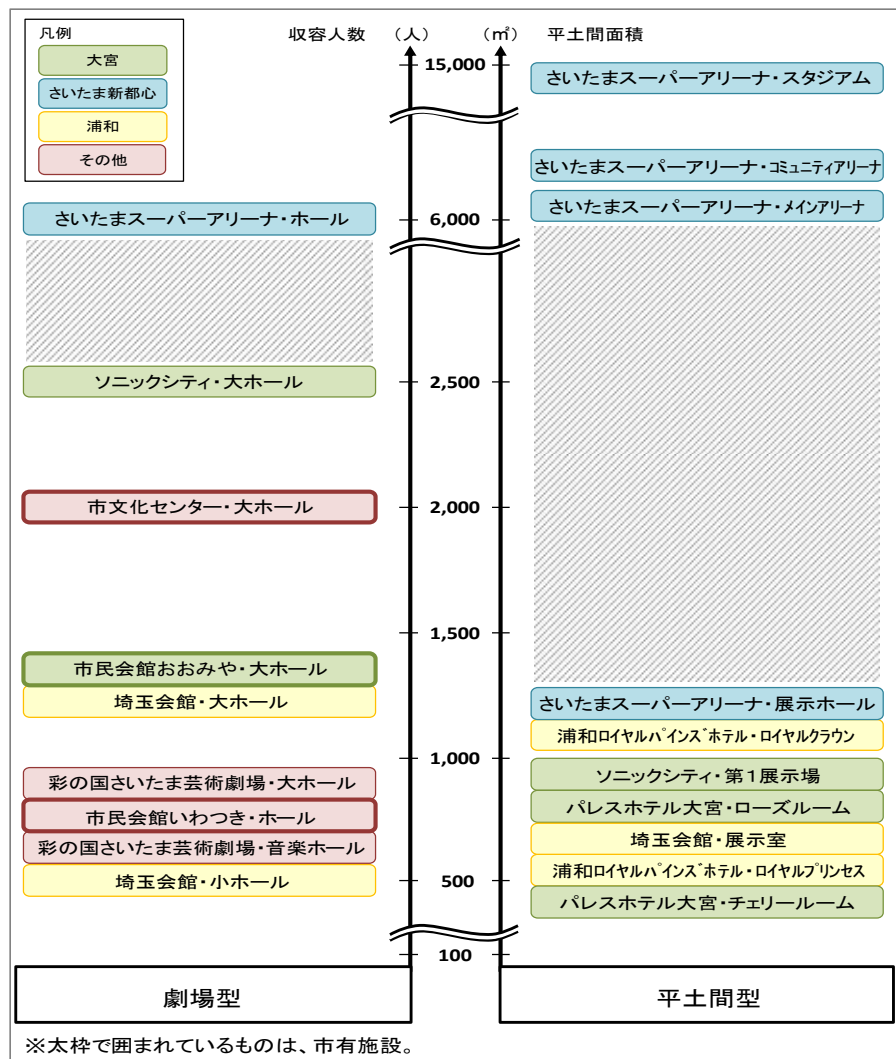
(2) 展示会・イベントの開催状況



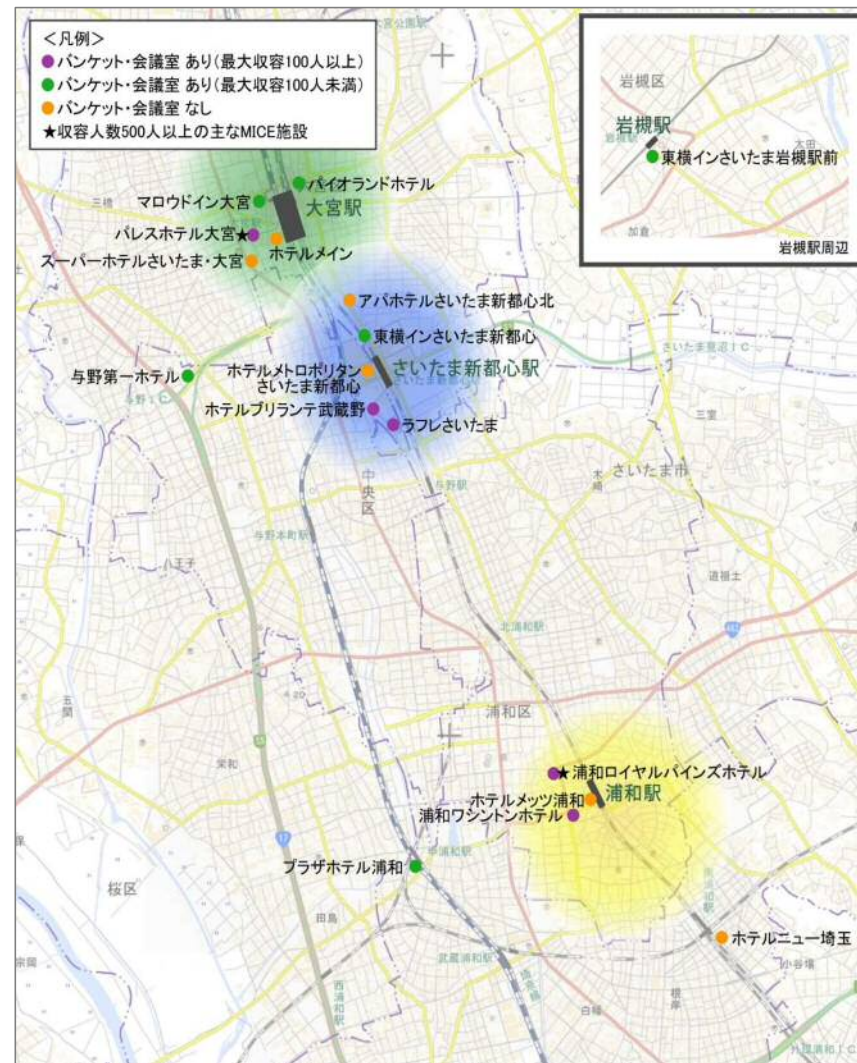
・コンベンションは110件から140件で推移し、医学系が多い状況

・展示会・見本市のほか、スポーツ、コンサートなどイベント開催の基盤がある

(1) MICE施設の分布



(2) ホテルの分布



**大規模なMICEの受入可能施設は高稼働
劇場型、平土間型ともに分布しない範囲が存在**

**都心駅を中心に分布
2016年の客室稼働率は80%超**

- ・ 鉄道・道路網による交通アクセスに優れている (M, I, C, E)
- ・ 首都圏広域地方計画における対流拠点としての位置づけ (M, I, C, E)
- ・ 東日本連携の取組として、(仮称)東日本連携支援センターの開設予定、及び広域周遊ルートの策定が進められている (M, E)
- ・ 「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の活用をはじめ、環境に対する先駆的な取組を実施している (C, E)
- ・ 1人あたりの消費額が高い医学系会議の開催割合が大きい (C)
- ・ 学会誘致のキーパーソンを有する大学、医療施設、研究所等が多数存在している (C)
- ・ 盆栽、人形、鉄道、自転車といった独自のテーマ、コンテンツを有している。(E)
- ・ さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002があり、スポーツ、コンサートといった集客効果の高いイベント開催の基盤がある (E)

- ・ 主要MICE施設の稼働率が高く、新規に誘致する催事を受け入れにくい (C, E)
- ・ ホテルの稼働率が年間を通して高い状況であり、特に大規模MICE開催時には市内での予約が難しい状況にある (M, I, C, E)
- ・ 参加者や関係者の宿泊需要を生みにくい単日開催のコンベンションが多い (C)
- ・ 展示会、見本市等の開催に適した平土間型施設が限定的 (E)
- ・ アフターコンベンションやユニークベニューとなり得る観光資源が限られている (C)
- ・ 他都市と比べて誘致担当者の人員が少なく、財政支援制度の助成金額も低い。(C)

さいたま市MICE誘致戦略の概要

7 取組の方向性①

目指すべき将来像

本市の強みを最大限に生かし、他の施策と連動しながら、広域的な枠組の中で本市が期待されている役割の強化につながる取組を展開することにより、

「東日本の中核都市にふさわしい“MICE都市さいたま”の確立

を目指す。



目指すべき将来像の実現のためには、長期的取組の土台となる基盤整備が必要。

今後取り組むべき段階的なステップを見据え、本戦略の計画期間（2018年度～2020年度の3年間）は、目標達成に向けた基盤を整備する期間と位置付ける。

計画期間(3年間)

2018年度から2020年度
(基盤整備期間)

2021年度以降
(成長促進期間)

東日本の中核都市
にふさわしい
“MICE都市さいたま”の
確立

8 取組の方向性②

本計画期間における取組の方向性

重点ターゲット の設定

確実なMICE開催件数の増加を図るとともに、本市が展開する施策と相乗効果があるMICEの開催・誘致に注力

ソフト施策 の方向性

既存のMICE施設や観光資源を最大限に活用しMICE誘致を行い、新たなキーパーソンやステークホルダーの発掘、誘致体制の強化を図る

ハード施策の 方向性

既存のMICE施設との規模や機能分担を考慮しながら、民間事業者のノウハウを活用しつつ、重点ターゲットを見据えたMICE施設の誘致活動を展開。また、宿泊特化型ホテルの誘致を重点的に行う

9 重点ターゲット

【重点ターゲット設定にあたっての考え方】

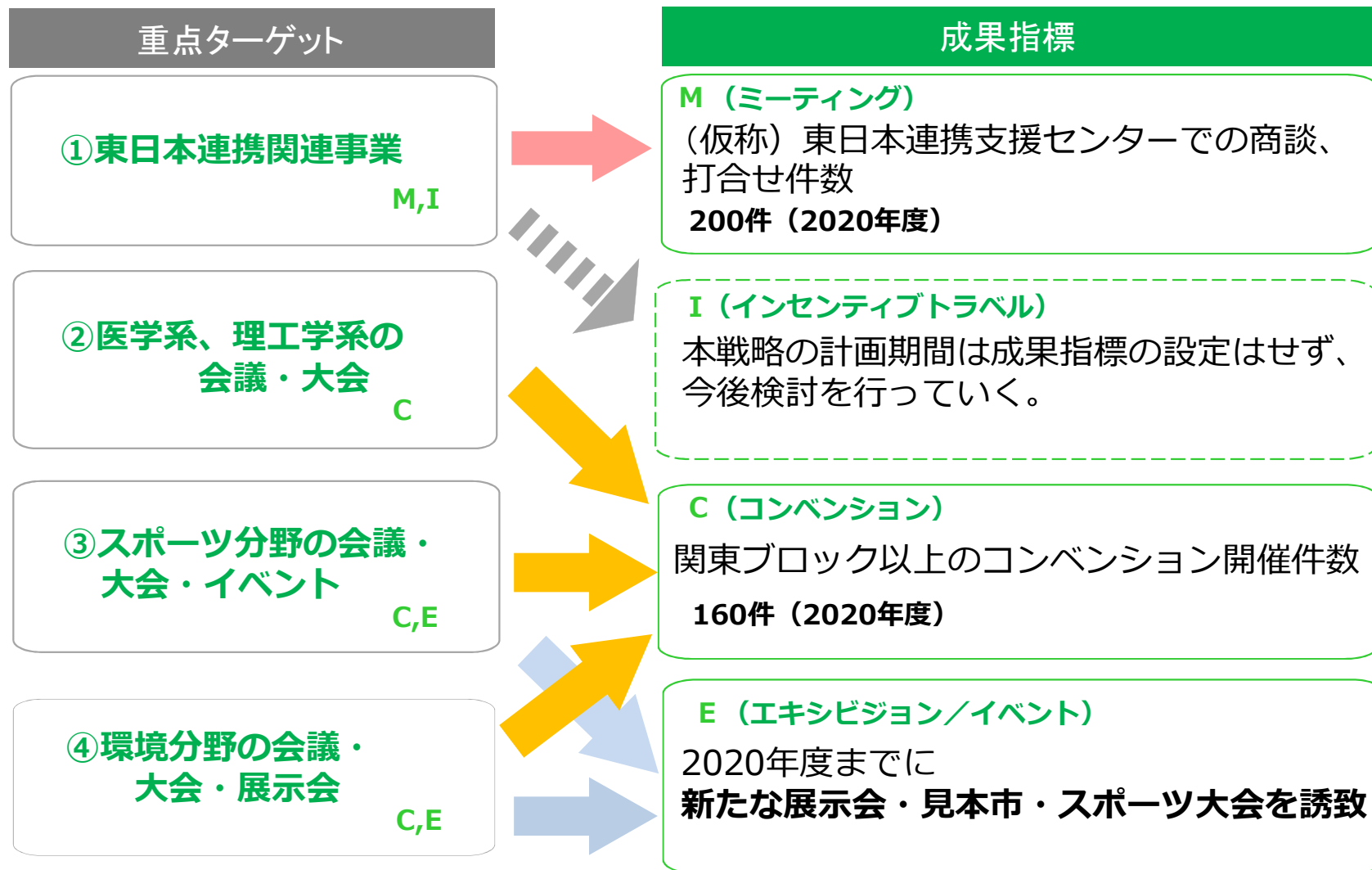
- ・現時点で一定の実績を有する分野をさらに強化するもの
- ・本市が展開する施策の推進に寄与し、さいたま市らしさを対外的にアピールできるもの
- ・広域連携の中で期待されている本市の役割の強化につながるもの



重点ターゲット①	東日本連携関連事業（M, I）
重点ターゲット②	医学系、理工学系の会議・大会（C）
重点ターゲット③	スポーツ分野の会議・大会・イベント（C, E）
重点ターゲット④	環境分野の会議・大会・展示会（C, E）

さいたま市MICE誘致戦略の概要

10 成果指標



さいたま市MICE誘致戦略の概要

11 展開施策① ソフト施策

①都市プロモーション・誘致活動の強化

- ・ 重点ターゲットの誘致に関するキーパーソン、ステークホルダーの発掘やリレーションの構築
- ・ 誘致ネットワークの強化、開催実績のある主催者等の再整理及びアプローチ方法の再検討 等

②受入可能施設の開拓

- ・ 市有施設の事前優先予約による有効活用
- ・ 本市の観光資源等の再整理による新たなユニークベニユーの開拓 等

③開催支援プログラムの充実

- ・ コンベンション開催助成制度の拡充
- ・ コンベンション主催者に対する助成金制度等の効果的な周知 等

④関係組織との連携強化

- ・ 市内及び近隣にキャンパスを構える大学との連携強化
- ・ スポーツ関係団体との連携強化 等

⑤人材の育成・登用

- ・ 地域の貴重な人材を生かした誘致体制の強化
- ・ さいたま観光国際協会のMICE担当人員体制の強化 等

①MICE施設

- ・ 既存施設との規模や機能分担、展示会・見本市やスポーツ・コンサートの開催などを見据えた平土間型ホールの整備・誘致（規模2,000～5,000㎡）
- ・ 民間事業者での施設整備も想定し、財政支援制度を検討・実施

②ホテル

- ・ 宿泊特化型ホテルの誘致を重点的に行い、市内の宿泊機能の強化を図る。
- ・ 宿泊事業者の進出を促すため、規制緩和の検討・実施
- ・ 国際会議等でのVIP受入れや本市のブランド力向上を見据え、スイートルームやバンケットを有する多機能型ホテルの誘致方策を研究。

さいたま市MICE誘致戦略の概要

12 中長期施策

2018年度から2020年度 (基盤整備期間)

2021年度以降 (成長促進期間)

ソフト施策

- ◆ 5つの施策展開
- ①都市プロモーション・誘致活動の強化
- ②受入可能施設の開拓
- ③開催支援プログラムの充実
- ④関係組織との連携強化
- ⑤人材の登用・育成

- ◆ 5つの施策展開を生かした重点的な誘致活動
- ◆ 新規施設開業を見据えた誘致活動

ハード施策

- <MICE施設>
- ◆ 新規施設（平土間型ホール）の誘致活動
 - ・ 財政支援制度検討・実施
- <ホテル>
- ◆ 宿泊特化型ホテルの誘致活動
 - ・ 規制緩和の検討・実施
 - ◆ 多機能型ホテル誘致方策の研究

- <MICE施設>
- ◆ 平土間形式ホールの誘致活動の継続
 - ◆ 上記以外の新規施設の必要性の検討
- <ホテル>
- ◆ 多機能型ホテルの誘致活動

MICE戦略の見直し

MICE都市さいたまの確立